

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070500539		
法人名	医療法人 栗山会		
事業所名	グループホーム わたぼうし		
所在地	飯田市羽場権現 1624		
自己評価作成日	平成22年1月17日	評価結果市町村受理日	平成22年4月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体病院、併設老健と連携・協力の下で運営をしている為、医療面(受診・内服処方)の便宜、状態変化時の対応等)がスムーズに行えるという利便性を備えている。また変化し易い高齢者の状態に合わせた介護サービスの導入など、併設老健も含め幅広い視点で必要サービスを捉え、ケア提供を心掛けている。当事業所内においては、ご利用者の生活リズムを基盤にしなが、ご本人・ご家族の意向を尊重したケアを行えるよう努めている。

事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070500539&amp;SCD=320">http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070500539&amp;SCD=320</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このグループホームは飯田市街から外れた段丘の上であり、交通の便や利用者にとっての環境には難点が見受けられるものの、同一法人経営である総合病院での医療の充実、併設の介護老人保健施設でのリハビリと、幅広い支援が得られるため利用者やその家族の安心の源となっている。  
そして、なによりも素晴らしいのは、利用者とともに生活する管理者・職員の明るさである。利用者一人ひとりのその人となりを大事に見守り、利用者同士の関わりを大切にしながら、家族のように気楽に対応している姿である。グループホーム「わたぼうし」にはその様子が生き生きと語られており、このグループホームの温もりが十分伝わってきて、好評である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	飯田市上郷別府3307-5
訪問調査日	平成22年2月17日

【サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名( わたぼうし )			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)		

## 自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地元地域への密着を考慮した、わたぼうし独自の理念を掲げ、施設内にも掲示している。	「住み慣れた地域の中、ご利用者・ご家族の気持ちを受け止め、ご家族・ご友人と関わりながら、穏やかな共同生活が送れるように支援します。」という理念をパンフレットなどにも記載して共通理解を図り、実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員としての交流は殆ど行っていないが、ご利用者との繋がりのある近所の方と、お茶を飲んだり、季節の野菜、お茶菓子のやり取りなどを行っている。	防災訓練には地域の方々に参加してくれたり、地域の中学校などとの交流を継続したりしている。また、地域のボランティアの方々も花壇の世話をしてくれている。	同一法人内の介護老人保健施設「アップルハイツ飯田」の併設として、地域との交流を見直していくことが期待される。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に、運営推進会議の場で、こちらから伝えられる範囲での情報報告を行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	経過報告行くと同時に、意見をいただく機会を設けている。また、その会議録をファイルし、閲覧出来るようにしている。内容については職員会議内でも、報告・検討を行っている。	運営推進会議は、事業報告や事故報告等を中心に話し合い、年4回継続して開催している。	運営推進会議の在り方を工夫して、地域の方の協力を得、年6回開催することが望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に併設老健が連絡を取っており、当事業所では関係書類提出時等のコンタクトや、事業所連絡会への出席にとどまっている。	併設介護老人保健施設と同一歩調をとって、市と連携している。また、運営推進会議での参加を通して、協力してもらっている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設老健施設内研修に参加。職員会議で、拘束についても議題にあげている。玄関の施錠については、ごく一般家庭の施錠時間に合わせている。	入居当初徘徊する利用者がいたが、職員がその雰囲気を感じて後をさりげなくついて支援するなど、施錠しないケアを心がけている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	併設老健施設内研修に参加。また、新聞等の関連記事を回覧、申し送りし職員の意識作りをしている。		

グループホーム わたぼうし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当事業所内で、権利擁護に関する勉強会を行った。ケース紹介等を通し、わかり易く職員に伝えることが出来た。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	併設老健相談員から説明を行うと共に、ご面会時に当事業所職員から改めて説明を行っている。ご家族からの質問、不安点等もその都度対応をしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回発行するご家族宛のお便りに、その旨を記載している。ご面会時談話中でも、さりげなくお聞きするよう配慮をし、改善点があれば検討をしている。また、併設老健にも窓口を設けてある。	家族が県外の方が3分の1あるため、家族会ができていない。そこで、毎月のお便りや、面会の機会に意見などを聞く雰囲気をつくり、対応している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者との直接的な接触は難しいが、併設老健で行う運営会議への意見等を、当事業所内職員会議の中で聞いたり、日常の中で聞き出すようにしている。	職員の間で言いやすい雰囲気を作っており、月1回の職員会議で話し合い、重要なことは併設介護老人保健施設での運営会議で取り上げるようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	併設老健管理者が把握すると同時に、職員組合が職場環境整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設老健管理者を介し研修への参加の推奨、各職員が立てた個人目標を評価しながら自己研鑽への指導を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者からの直接指導はないが、ネットワーク会などの参加や、研修への参加は協力的に行っている。		

グループホーム わたぼうし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居時に、聞き取りをじっくり行うと同時に、特に入居まもなくは、ご本人の生活・様子観察を注意深く行い見守っている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族から困っていることや、求めていることを聞き、安心して預けていただけるよう努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>見極めは難しいが、サービスの検討は行っている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員も「一緒に暮らす」という意識を持ち、支え合う関係作りに努めている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>毎月1回、ご家族宛にお便りを書いている。文書に残すことで、職員もその意識を高めている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご利用者全員には出来ていないが、出来る範囲、希望のあるご利用者への支援を行っている。</p>	<p>近くに友人がいる利用者には、友人にグループホームに立ち寄ってもらったりして、地域とのつながりを大切に支援を行っている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ご利用者同士の関係を把握し、対職員との距離を計りながら、孤立しないケア、距離感を見つけ支援に努めている。</p>		



グループホーム わたぼうし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでに、相談や支援の経緯はないが要請があれば応じるよう意識している。退所後にお礼を兼ねた葉書を出したり、戴くこともある。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスを中心に、申し送り等でも一人一人のニーズを把握、情報交換し合い検討している。	センター方式のチェックシートを使い、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。さらにその情報を掘り下げて、活用するよう検討を進めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にお聞きした情報をベースに日々の生活の中で、ご本人・ご家族から、さらにお聞きする努力をしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人一人の生活ペース、性格面共に把握し、その情報を共有している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族との面談、ご本人の気持ちを引き出し、ケア経過の中での留意点を考慮し介護計画を作成している。3ヶ月毎の評価の他、カンファレンス、ショートカンファレンスを繰り返している。	利用者一人ひとりの介護計画において、モニタリングを重視し、3ヵ月ごとのアセスメントの他に、カンファレンス・ショートカンファレンスを積み重ねている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の言動・状態をかなり詳しくカルテに記録している。ワークシートの活用で情報共有し、ケア経過をまとめ見直しも行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランをベースに、ショートカンファレンス等で、状態変化・状況変化に合わせてその都度対応し支援に努めている。		

グループホーム わたぼうし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域資源の把握が出来ていないが、地域中学生の職場体験、近隣企業やシニア大学ボランティア等、関わりを持てるよう努めている。</p>		
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご家族からかかりつけ医療機関をお聞きする他、症状に合わせご希望に沿った受診対応が出来るよう努めている。</p>	<p>同一法人内に総合病院「飯田病院」があり、同一敷地内の介護老人保健施設とも連携して、利用者や家族の希望や症状にあった対応ができるようになっている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>併設老健の看護師に状態報告、指示を仰いでいる。夜間・休日にも当直看護師との連絡体制が整っている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>併設老健の看護師を主に、母体病院との情報交換を行い適切な医療が受けられるようにしている。また、入院中も更に情報伝達を行っている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ある程度の状態変化が見られた場合には、ご家族とコンタクトをとり、今後の方針を検討しご本人・ご家族にとってより良い方針を固めていくよう努めている。</p>	<p>現在介護度3までの利用者ばかりであるが、リハビリの面では介護老人保健施設、医療の面では総合病院と全面的なバックアップがある。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時には併設老健の看護師が対応している為に、当事業所職員に実践力が身に付いているとは思えないが、ご利用者の状態変化に気づき報告することは身に付いている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>併設老健との合同避難訓練を年2回実施している。地域の方の参加・協力して頂き、協力・連絡体制が整っている。</p>	<p>介護老人保健施設と連携し、地域の方々が参加した避難訓練を行っている。夜間の連絡体制を充実してゆく方針である。</p>	<p>敷地や施設の面で、避難経路についての問題点を抱えており、できる範囲での対策が望まれる。</p>

グループホーム わたぼうし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄物の処理の際など、ご本人への配慮を忘れないことを徹底し、職員も対応を心掛けている。また日常の中でも誇りやプライバシーへの配慮に心掛けている。	職員が利用者一人ひとりの対応を大切に、利用者同士の関わりがスムーズになるように、気楽に声をかけ、明るく振舞っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者に希望を聞く場合には、選択出来るよう説明をしたり、談笑の中から聞き出すなど工夫している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れの中で、決まり事(入浴・食事等)への声掛けは行うが、拒否があっても無理強いせず、ご本人のペースに合わせて支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の好みや、身だしなみのポイントを把握し行事や外出に合わせた服選びを職員と共に行ったり、お化粧品、整髪の支援をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎回ではないが、食事作りへの支援、食卓準備の支援、片付けの支援を行っている。ご利用者の中でも、役割が自然に生まれ、共に声を掛け合っている姿がみられる。	利用者はそれぞれできる下ごしらえ、お茶くみ、下げ膳をし、楽しく食事をしていた。そして、職員は食事が進むよう絶えず声かけし支援していた。また、食材を工夫した献立で大変おいしく、利用者は完食していた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量の把握、確認が出来ている。嗜好品を取り入れながら、必要量の確保にも努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立、見守り、声掛け、介助など個人の状態を把握し、職員が口腔ケアに関わっている。		

グループホーム わたぼうし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を心掛けると同時に、自分で排泄が出来たと思えるような最小限のフォローを心掛けている。生活パターン、仕草、癖の把握にも努めている。	利用者一人ひとりの状態や時間を見て、職員は適切な声かけをし、援助していた。また、利用者が利用者を助けて補助していく姿を見ることができた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認が必要な方には朝食に水や牛乳等を勧めたり、果物や便秘薬の服用にも対応しているが、全体的に運動不足の傾向も感じている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の時間帯は決まっているが曜日は決めずに、体調や気持ちを尊重した対応に努めている。湯温、浸かる時間の好みを把握し対応している。	週2回、午後の入浴が原則で、希望があればそのつど対応している。隣接の介護老人保健施設の機械浴も利用することができる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や状況に合わせて、休息の声掛け、誘導を行うと同時に居心地の良い空間作りに努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容が一覧できるファイルを作成しいつでも確認出来るようにしている。副作用や禁止食品を掲示、申し送りで徹底し、職員会議の中でも再度確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の状態に合わせた役割作りや気分転換などに対応しているが、ご利用者全員の日常に活かしていない面もある。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節柄、外出の機会は極端に少ないが、ご家族の協力を得られた場合には外出の支援をしている。	隣接の介護老人保健施設での行事に出かけたり、周りの果樹園あたりを散歩したり、また、近く農協の店へ買物しに行くなどの支援をしている。	周りの環境に恵まれていないことがネックとなり、外出する機会が少ないので、隣接の介護老人保健施設や地域との連携をさらに進め、外出の支援をしていくことが望まれる。



グループホーム わたぼうし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全体外出の際には、個人用小遣いの中から自分で支払いが出来るよう支援している。また個々の外出時、希望時にはお小遣いの使用が出来るよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りはないが、電話対応の支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間への配慮、季節の物を取り入れた飾り付けの工夫や、その装飾品作りを一緒に行っている。テレビや音楽の音量にも配慮している。	食事し、談笑し、テレビを視聴する共有空間を広くとっており、リハビリ体操を一緒にすることもできる。そして、まわりの壁にはそれぞれの年の写真が掲示されていて、思い出となる懐かしい空間を作っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	季節柄、炬燵での自由時間や、思い思いの時間が過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に入居説明時に居室作りについてお願いしている。また日常の中でご本人が気に入った物を居室に飾る工夫をしている。	利用者一人ひとりの希望を採り入れ、さっぱりした居室である。居室にはそれぞれ洗面所が設けられ、利用者にとっては使いやすくなっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状態を把握し安全に配慮しながら、その人らしく生活が送れるよう工夫している。		